

みこばたあたごじんじゃごまふだ
110. 神子畑愛宕神社護摩札

指定日

昭和60年4月23日

種別

有形文化財 歴史資料

年代

江戸時代

所在地

朝来市佐囊

所有者

神子畑愛宕社



内容

神子畑の氏神稲荷神社のそばにある、愛宕神社内陣に残されている8枚の護摩供養札。明治元年に愛宕大明神と改号されるまでの愛宕大権現は、古くは愛宕山にあり、毎年2回の例祭に修験者によって柴燈護摩が焚かれていた時のものである。

護摩札墨書はほぼ同じ内容である。不動明王の種子に続いて「奉修大峰柴燈護摩愛宕山大権現祈処」とあり、左右に「金剛蔵王、胎蔵権現」と先達名「江州飯道寺岩本同行権大僧都泉光坊度処」と書かれたものが多い。残されている札の紀年銘は、元和5年(1619)、寛永元年(1624)、寛永3年、寛永7年、寛永8年、元禄7年(1694)、延享5年(1748)、宝暦7年(1757)それぞれ7月または8月とある。

神子畑銀山の歴史は古く、大同年間(806～809)との説もあるが、いずれにしても護摩札は銀山繁昌を祈念したものであろうし、銀山の盛衰とともにあった寺社の浮沈をこの護摩札は示しているようである。